

科目名	スポーツビジネス特論 Sport Business		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・4 限	秋・月・5 限	-	-
担当教員名	西原 康行	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>スポーツという商品特性を理解したうえで、マクロ分野における経営戦略論及び組織論を援用して、スポーツマネジメントの特異性について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>「イノベーション」と「ソーシャルキャピタル」を中心に、地域性の中のスポーツマネジメントについて理解を深めて、事業計画を作成できる。</p> <p><アクティブラーニング要素></p> <p>講義でのディスカッションと、12 週目から 14 週目はグループで事業計画を作成して意見交換</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 回目： <ガイダンス及びスポーツ科学の中での位置づけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：15 週の内容と評価について理解するとともにスポーツマネジメントの科学的位置づけを理解する。 <p>2 回目： <スポーツの歴史から見る特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：スポーツの商品特性について古代、中世、近代とレビューする。 <p>3 回目： <スポーツの社会性から見る特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：現代社会におけるスポーツの商品特性を経済・政治・メディアの観点でとらえる。 <p>4 回目： <スポーツマネジメントの構造論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：スポーツマネジメントの構造を事業論と関連させてとらえる。 <p>5 回目： <スポーツマネジメントの過程論></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：スポーツマネジメントの構造を過程の変化としてとらえ、スポーツマネジメントの実践に近づける。 <p>6 回目： <地域ロイヤリティとスポーツマネジメント①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ヨーロッパサッカーを援用してスポーツマーケティングを理解する。 <p>7 回目： <地域ロイヤリティとスポーツマネジメント②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ヨーロッパサッカーを援用してマーケティングからマネジメントへの変換について理解する。 <p>8 回目： <スポーツのイノベーション①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：Jリーグを中心にイノベーション事例を理解する。 <p>9 回目： <スポーツのイノベーション②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：プロ野球を中心にイノベーション事例を理解する。 <p>10 回目： <ソーシャルキャピタルとスポーツ①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ソーシャルキャピタルとしてのスポーツの社会的背景について理解する。 <p>11 回目： <ソーシャルキャピタルとスポーツ②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：地域スポーツクラブを事例としてスポーツの共益性事業について理解する。 <p>12 回目： <スポーツマネジメント事業計画立案①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：地域スポーツクラブの市場規模設定を行なう。 				

13 回目：＜スポーツマネジメント事業計画立案②＞

・要点：地域スポーツクラブの原価主義に基づく事業設定を行なう。

14 回目：＜スポーツマネジメント事業計画立案③＞

・要点：地域スポーツクラブの会費・参加費・スポンサー費・補助金等の収入設定を行なう。

15 回目：＜まとめ＞

・要点：安定した地域スポーツクラブ事業計画の最終調整を行なう。

＜講義の進め方＞

60 分のレクチャーと 30 分のディスカッション、12 週目～14 週目はグループで事業計画作成

＜事前事後学修内容＞

前回授業時に関連した資料を提示するので、次回授業時のディスカッションに耐えうる資料収集やまとめをノートに記述しておく

＜予習・復習時間＞

各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をします。

＜教科書及び教材＞

授業時に資料配布

＜参考書＞

特になし

＜成績評価方法＞

欠席 6 回以上は成績評価しない。

講義内でのディスカッション (50%)・レポート (50%) で評価する。

＜課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法＞

次回授業時冒頭、口頭及び mentimeter 等でフィードバックする。

＜履修条件＞

特になし

＜ディプロマポリシーとの関連＞

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

＜録画映像の視聴＞ 可

＜オフィスアワー＞

月曜日 18:00-18:30

＜その他＞

ディスカッションは、それまでの講義内容を踏まえてトピックスを具体的にあげて議論するため、新聞から講義に関連するトピックスを調べて講義に臨むことを求める